野崎クリニック

無痛分娩について

はじめに

太古の昔から分娩は女性にとって危険と苦痛を伴うものでしたが、医療の発展に伴い
分娩自体の安全性は飛躍的に向上してきました。

さらに近年では無痛分娩により、女性が避けては通れなかった分娩に伴う苦痛をかなり
軽減することが可能になっています。
すなわち「安全で快適な分娩」が十分に実現可能になっています。

当クリニックでも、この「安全で快適な分娩」を実現するために産婦人科医と助産師に
加え、麻酔科医がチームとして無痛分娩を実施しています。

無痛分娩とは

無痛分娩とは、麻酔を使用して陣痛の痛みを緩和しながら分娩する方法です。
出産時は陣痛を始め、赤ちゃんが出てくる時の痛みなど、強い痛みを何度も、長時間に
わたって感じることになります。

お産の痛みの感じ方は人それぞれですが、「鼻の穴からスイカが出てくるみたい」
「ハンマーで腰を殴られているよう」などと比喩されることが多く、分娩に対して恐怖感を
感じる方も少なくありません。

そんなお産への恐怖や、実際に感じる痛みを緩和するために誕生したのが無痛分娩で、
1853 年にイギリスのヴィクトリア女王がクロロホルム麻酔を使って出産したのが始まり
とされています。

🎀当院では硬膜外麻酔による無痛分娩を行っています。
脊椎（背骨）の中の硬膜外腔というスペースに細い管（硬膜外カテーテル）を挿入し、
そこから局所麻酔薬を注入する方法です。

図4A

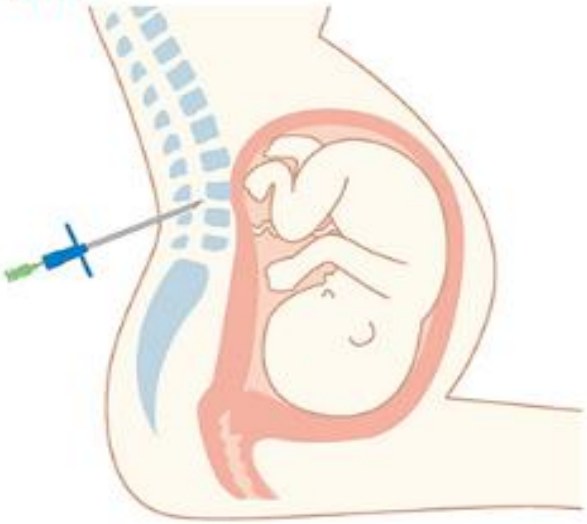
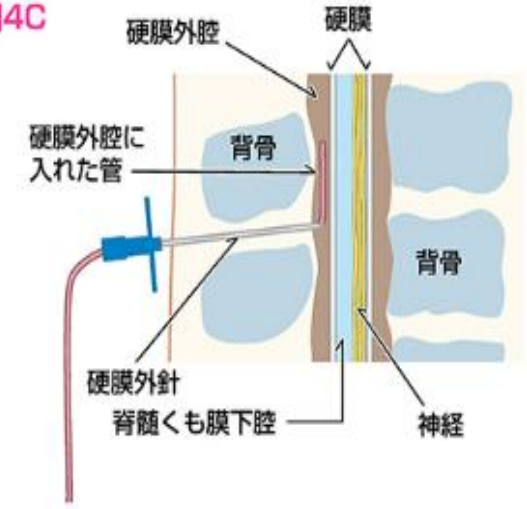
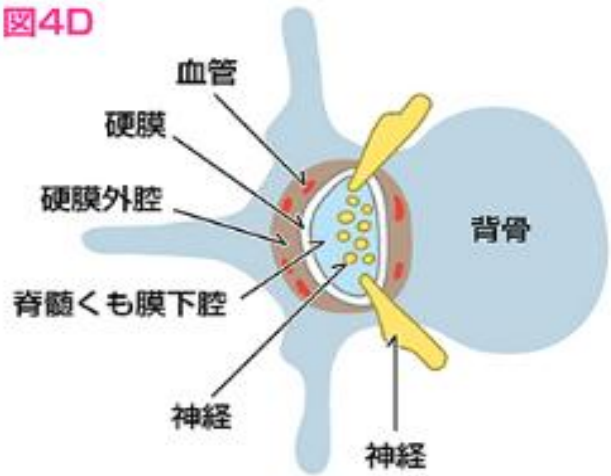


図4C



©日本産科麻酔学会

図4D



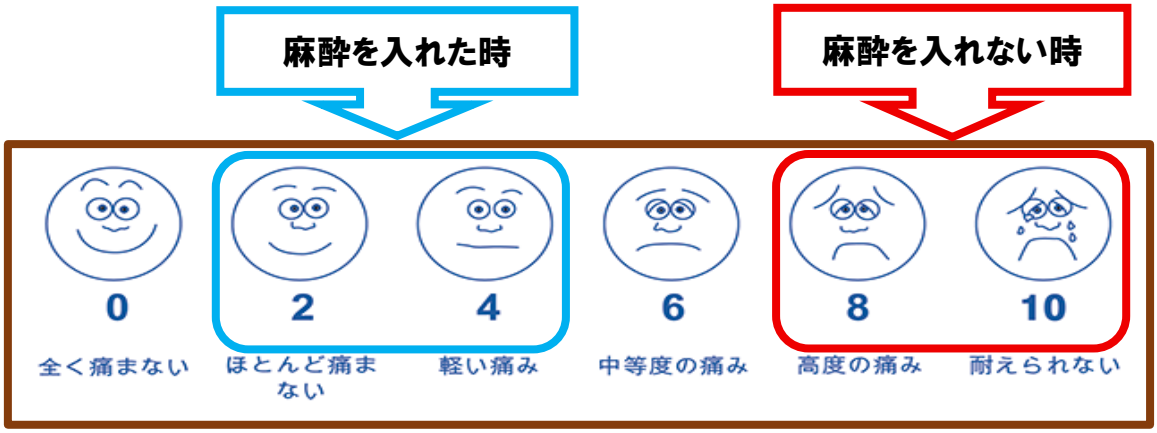
8 麻酔医が伺い、いつ麻酔を開始す

るか相談しながら決めます。

硬膜外カテーテル挿入の際には、横向きになって背中を丸めていただきます。
その後背中を消毒してから、刺入部に細い針で局所麻酔をします。この時ほんの少し痛みますが、
麻酔後はほとんど痛くありませんので、怖がらず良い姿勢をとっていただければ、カテーテルの
挿入は 5 分程度で終わります。
麻酔の最中に陣痛が来てしまったときは、声は出してもかまいませんが、
なるべく動かないようにしてください。

VAS スケール：視聴覚的評価スケール

想像できる最悪の痛みを 10 点満点とし、痛みが全くない状態を 0 点とした場合に
今感じている痛みは何点ぐらいか表現するために使用します。
無痛分娩といっても痛みを完全になくすわけではないことを十分にご理解ください。



🎀麻酔を開始したら転倒予防のためベッド上で過ごしていただきます。

点滴

脱水予防のため前日から点滴をします。
翌日から陣痛促進剤を使用します。

硬膜外カテーテル先端

ここから薬を入れます。

血圧計

お母さんの状態を
常にモニターします。

血中酸素濃度
（指にクリップのように挟みます）

分娩監視装置

お腹の張りと赤ちゃんの心拍をモニターします

尿管

麻酔が効いてトイレに行けないため
尿管を挿入します

無痛分娩のリスク

無痛分娩自体は十分に安全な方法ですが、いくつかのリスクがあります。

① 分娩遷延：局所麻酔による運動神経麻痺のために、分娩時間が延長したり、
吸引分娩が必要となる可能性が増えたりすることが指摘されています。

② 頭痛：局所麻酔の影響で分娩後に頭痛を起こす可能性が 1%程度あります。
この頭痛は座位や立位で増強するので、授乳の妨げになることがありますが、
ほとんどの場合 1 週間以内に自然に良くなります。頭痛がひどい場合には
積極的な治療もありますので、我慢せずに麻酔科に相談してください。

③ 発熱：硬膜外麻酔の影響で 38℃以上の発熱を起こすことがあります。
赤ちゃんに対する影響はありません。

④ かゆみ：麻酔の影響でかゆみを感じる妊婦さんがいらっしゃいます。
多くの場合我慢できないようなかゆみではありませんが、我慢できない場合、
冷やしたタオルなどをあてるとかゆみが和らぎますので、助産師にお伝え
下さい。

⑤ 腰痛・下肢神経障害：腰痛や下肢の神経障害は分娩後に稀にみられる合併症ですが、
無痛分娩との直接の因果関係は証明されていません。

⑥ 排尿障害：無痛分娩に伴って一時的に排尿障害が起こることがありますが、症状が
退院時まで持続することは非常に稀です。

⑦ 重篤な合併症：無痛分娩による重篤な合併症は非常に稀です。

無痛分娩が赤ちゃんに与える影響

以前はお母さんにマスクから吸入麻酔薬を吸ってもらったり、点滴から静脈麻酔薬を
入れたりして、いわゆる全身麻酔に近い形で無痛分娩を行っていた時代がありました。
これらの方法でも、決して赤ちゃんに悪影響があったわけではありませんが、多少の
麻酔薬が胎盤を通過して赤ちゃんに移行するので、生まれてきた赤ちゃんが少し元気が
なかったりしたことがあったようです。しかし最近の局所麻酔による無痛分娩では、
使用する麻酔薬の量が非常に少ないのでこれらの薬剤が胎盤を通過して赤ちゃんに
移行し、赤ちゃんになんらかの影響を与える心配はほとんどありません。
もちろん無痛分娩によってお母さんの血圧が下がったりした場合には、赤ちゃんの血圧も
下がりますが、お母さんの血圧が下がらないように注意して管理すれば、無痛分娩に
よって赤ちゃんの状態が悪くなることはありません。

無痛分娩の流れ

①計画出産
②陣痛促進
③無痛の同意書
３枚に署名・捺印をしてお持ちください

入院前

- 妊婦健診時に産婦人科の医師と相談して入院日を決定します。
- 麻酔に必要な血液検査をします
- 同意書をお渡しします。（計画分娩・促進剤・無痛分娩）

入院～分娩まで

- 原則分娩前日に同意書・母子手帳を持って入院します。
- 内診後、前処置（メトロ挿入）を行います。

- 感染予防のため抗生剤を内服または点滴します
- メトロが抜けたら浣腸をし、無痛分娩を開始します。
- 抜けなかった場合は翌朝診察後、無痛分娩を開始します。

- 前日の夕飯後から分娩終了までは絶食です。（誤嚥性肺炎の危険を減らすため）
- 無痛中は、お茶・水・スポーツドリンクは飲水可能です。（ゼリーも可）

その他の注意事項

🎀無痛分娩の実施できる曜日や人数に制限があります。
詳しくは事務へお問い合わせ下さい。また普通分娩から無痛分娩に切り替える場合、曜日や時間帯によって実施できない場合があります。
🎀立ち会い分娩は可能ですが、途中退室して頂く場合があります。
🎀無痛分娩でも体力と精神力は必要です。マタニティービクスなどで体力をつけることや自分で産むという強い気持ちを持ちましょう。

無痛分娩の費用について

事前に申し込みしている場合は 10 万円です。
事前に申し込みしていない方で、途中から無痛分娩をする場合は 12 万円いただいております。また薬の使用する量や実施する時間帯により増額する場合があります。